

令和4年7月22日

文化審議会の答申（登録有形文化財（建造物）の登録）

文化審議会（会長 佐藤 信）は、令和4年7月22日（金）に開催された同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、新たに136件の建造物を登録するよう文部科学大臣に答申しました。

この結果、官報告示を経て、登録有形文化財（建造物）は13,546件となる予定です。

1. 今回答申された登録有形文化財（建造物）の概要

	新規登録	累計
登録件数	136	13,546
関係都道府県数	32	47
関係市町村(区)数	60	1,002

○時代別 (件)

	江戸以前	明治	大正	昭和	計
新規登録	37	36	22	41	136
累計	2,419	4,267	2,748	4,112	13,546

○種別 (件)

	産業			交通	官公庁舎	学校	生活関連	文化福祉	住宅	宗教	治山治水	他	計
	1次	2次	3次										
新規	4	7	15	0	3	5	0	3	63	36	0	0	136
累計	123	1,419	1,694	513	240	422	337	463	6,063	1,964	223	85	13,546

(件)

	建築物	土木構造物	その他の工作物	計
新規登録	119	1	16	136
累計	10,752	664	2,130	13,546

今回の答申における主なもの

① ^{おうしゅうかいどう}奥州街道の歴史的景観を伝える大型養蚕民家
008 松田家住宅主屋 福島県国見町 明治43年

奥州街道の^{かいだしゆく}旧貝田宿に位置する大型養蚕民家。街道側を^{いりもやづくり}入母屋造として家の構えとし、反対側を^{きりづまづくり}切妻造で棟に煙出しを設け、養蚕のための造りとする。大火後の建築のため軒裏まで^{しっくい}漆喰で塗込め、雨戸や戸袋を鉄板張とし、厳重に防火に備え、独特な外観を呈する。伝統芸能の発表会を行うなど活用に取り組む。



② アントニン・レーモンド設計のモダニズム大規模邸宅
021 ^{あかほしてつま}旧赤星鉄馬邸 東京都武蔵野市 昭和9年

^{せいけい}成蹊学園の南に広大な敷地を構えた実業家の邸宅で、建築家アントニン・レーモンドの設計。中央で屈曲した東西に長い中廊下型平面で、連続窓で水平線を強調する。キャノピーを差し出した玄関に、スリットを入れた曲面壁の階段室を付し、コンクリート造形の可能性を追求した。



③ 特異で洗練された^{まつもとだいら}松本平の彫刻付社殿
055・056 ^{つうそ いまい かねひら}續麻・今井（兼平）^{つうそしゃ かねひらしゃ}神社續麻社・兼平社

長野県松本市 安政6年（1859）・天保4年（1833）

松本平南西の^{きそよしなか}今井地区にある木曾義仲に従った^{いまいかねひら}今井兼平を祀る社と續麻社を合祀した神社の社殿。一間社^{いっけんしゃながれづくり}流造の形式で優れた技量を遺憾なく発揮した彫刻で飾る。重要文化財田村堂などを始めとする、この地域に存続する特異で洗練された彫刻を施す社殿の好例。

（写真は手前が續麻社、奥が兼平社）



④ 太平洋を望む鰹節製造の燻しと黴付けの小屋

088 かつおの天ぱく作業場 三重県志摩市 昭和26年

太平洋を望む大王崎に所在し、かつては波切漁港で水揚げした鰹を直ちに加工し、現在も鰹節製造をおこなう作業小屋。瓦葺き屋根、
立ていたかべの燻し小屋と黴付け小屋を一体で建て、主屋との間の作業場に大屋根を架ける。焙乾窯等と共に鰹節製造の伝統的な工程を示す。



⑤ 日本遺産「葛城修験」を守り伝える行所の庫裏

096 堀越 観音庫裏 和歌山県かつらぎ町 江戸末期

和泉と高野山を往来する七越峠近くに所在する葛城修験行所の一つで、本堂西隣に位置する庫裏。茅葺き屋根、竈を置く土間、六間取鍵座敷として縁を回す農家風の庫裏。オダチ組の小屋など古式を示す。修験の歴史的景観を伝える。



⑥ 建築家磯崎新の初期代表作

134 旧大分県立大分図書館（アートプラザ） 大分県大分市 昭和41年

建築家磯崎新が設計した初期代表作で、郷里大分市の中心市街地に建つ日本建築学会賞受賞作。コンクリート打ち放しの巨大なペアウォールと中空梁が陰影織り成す外部と、スキップフロアを多用した空間構成は巧みで独創的。



提供：大分市教育委員会

<担当> 文化庁文化財第二課電話：03-5253-4111（代表）
課長 山下 信一郎
課長補佐 時枝 正和
登録部門 黒坂 貴裕、清永 洋平、須藤 洋行（内線 2797）
審議会係 森 幸一郎、内田 奈緒（内線 3160）